

目 標

国有林のフィールドで検証した技術を地域へ普及し、造林作業の軽労化・低コスト化の推進に貢献

取組内容

【生長量調査の実施・検証】

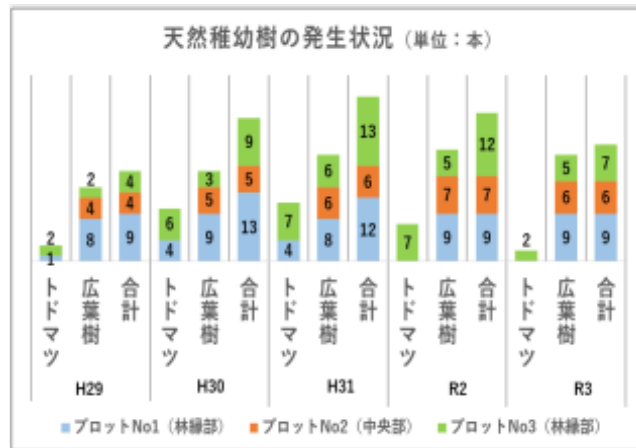
植栽木の生長が下刈省略化の可能性を検証するため、令和元年度に植栽したカラマツ裸苗、令和2年度に植栽したカラマツコンテナ苗の大苗及びカラマツ緩効性肥料施用苗の植栽箇所において、調査プロットを設定し生長量調査を実施した。



【天然更新の調査・検証の実施】

造林コスト(植付経費)の低減には天然更新による稚幼樹の活用が有効な手段の一つと捉え、調査を続けてきた。

調査プロットを3箇所設定していたが、トドマツ稚幼樹が残っているプロット3は昨年度と比較し本数は5本減少し、樹高生長も停滞している。一方、天然広葉樹は新たな発生は無いが、樹高が1mを超える個体も見え始めた。



結果

緩効性肥料施用苗とコンテナ苗の大苗の生長量の比較では、緩効性肥料施用苗の生長が良く、昨年度と比較し127%の生長率となった。

植栽から2年目であり、下刈回数削減の可能性について今後も継続して調査する。



カンバ類を主体とする天然稚幼樹の生長は旺盛であったが、調査プロットによって生長に差異が見受けられた。光環境や地理条件によるものなのか、継続して調査する。

天然稚幼樹の生育状況



今年度の総括 次年度の予定

カラマツコンテナ苗の大苗及び緩効性肥料施用苗の生長量について、今後も継続して調査、データの収集を行い、下刈省力化の可能性を検証していく。
天然稚幼樹の発生・成長について、今後も継続して調査しデータの収集・検証を行う。